

ウェブコンテンツ管理・配信の効率化で 対民サービスが「ちゃくちゃく」

アイオン「ICS」導入... 多様なインターネットサービス提供



(出処: Network Times, 2007.6)

高陽市役所は、同市役所のための個性的なウェブアイデンティティを構築することで、市役所/区役所のホームページ運営者が特定権限の範囲でウェブページを柔軟に運営できるように、CMS(Contents Management System)を利用した権限別ホームページの運営プロセスを設計した。既存の一般行政サービスだけを提供する自治体のホームページから一歩進んで、市民生活中心のeビジネスのための高陽市ウェブページを構築するためである。

権限別ホームページの運営プロセスを設計

高陽市役所はウェブ情報サービスにインターネット利用者を気軽に接近させて、コンテンツの管理や配信の効率性を増大させるためにアイオンコミュニケーションズの「ICS(I-ON Content Server)」を導入した。ウェブサイトの安定的な運営体系を構築し、住民に多様なインターネットサービスを提供することが可能になって、市政広報の第一関門である高陽市ウェブサイトの対民サービスや地域競争力の強化に万全を期している。

高陽市がeビジネスウェブページの構築プロジェクトを通じてCMSを導入した主な理由は、現在サービスされている高陽市役所ウェブページのコンテンツやDBが市役所のホームページを含めた各区・郡役所のホームページでも重複されるなど、分離管理による問題にある。

そして区・郡役所のウェブコンテンツを高陽市役所で一括管理しアップデートしたため、企画者、プログラマー、デザイナーが一緒に進行するのに時間、人力、費用などが相当必要だった。その上、高陽市のみの特色のあるページを構築しようとする欲求もCMS導入決定の要因になった。

高陽市役所の公報担当官室 ジュ・チャンマン氏は「高陽市ホームページの活性化のための基本プロセスの安定化方案をめぐって、専門家たちの意見と構築ケースなどを多角的に検討した結果、コンテンツ管理や配信の困難などがあり、CMSの導入を決定した。CMSを構築して、担当部署で迅速で自発的にコンテンツを管理できるようになった。」と語った。

CMSの導入構築に乗り出した高陽市役所は、プロジェクトチーム－使用者を全て統合できる直列・並列承認フローの生成機能や既登録された承認フローの持続的な再使用機能を支援するCMSを構築することを基本方向に設定した。また高陽市に適合した独創的なデザインを開発して掲示板機能を大幅に改善し、掲示板別で運営者を追加、削除、変更できるようにして読込、作成、削除、回答権限を設定するなどコンテンツ管理の効率化を具現した。

アイオンソリューションでコンテンツ管理環境の具現

区役所/部署別ウェブページの機能を強化して高陽市ホームページ改編のためのベンダー選定作業に乗り出した高陽市は、アイオンの「ICS」ソリューションを選択した。基準によってベンダー間の性能差はあったが総合的に検討した結果、全てのサービスとコンテンツを管理できる簡単で便利なシステムとして強みを持っているアイオンに高い点数をあげた。

「アイオンのCMSソリューションはコンテンツ管理をウェブブラウザで遂行できて、コンテンツ管理者が別途のプログラムや使用方法を習わなくても簡単に適応して実務で直ちに使用できる。コンテンツの生成から消滅にわたるライフサイクル過程で、高陽市が要求する基準によって承認過程をデザインできる機能的なワークフロー支援が重要だった。またサイトやカテゴリ別の管理者設定、チーム別/個人別の権限や接近制限付与、承認段階設定などの長所が優秀だった。」(ジュ氏)

CMSを構築する際に、最も重点的に検討した部分に対してジュ氏は「IT専門家ではない使用者が直接コンテンツを変更しなければならないのでインターフェース部分が重要で、ファイルをアップロードしてダウンロードする途中、アクセスが切れてファイルがなくなったり損傷されたりする問題を避けるには安定性が優先だった。」と説明した。

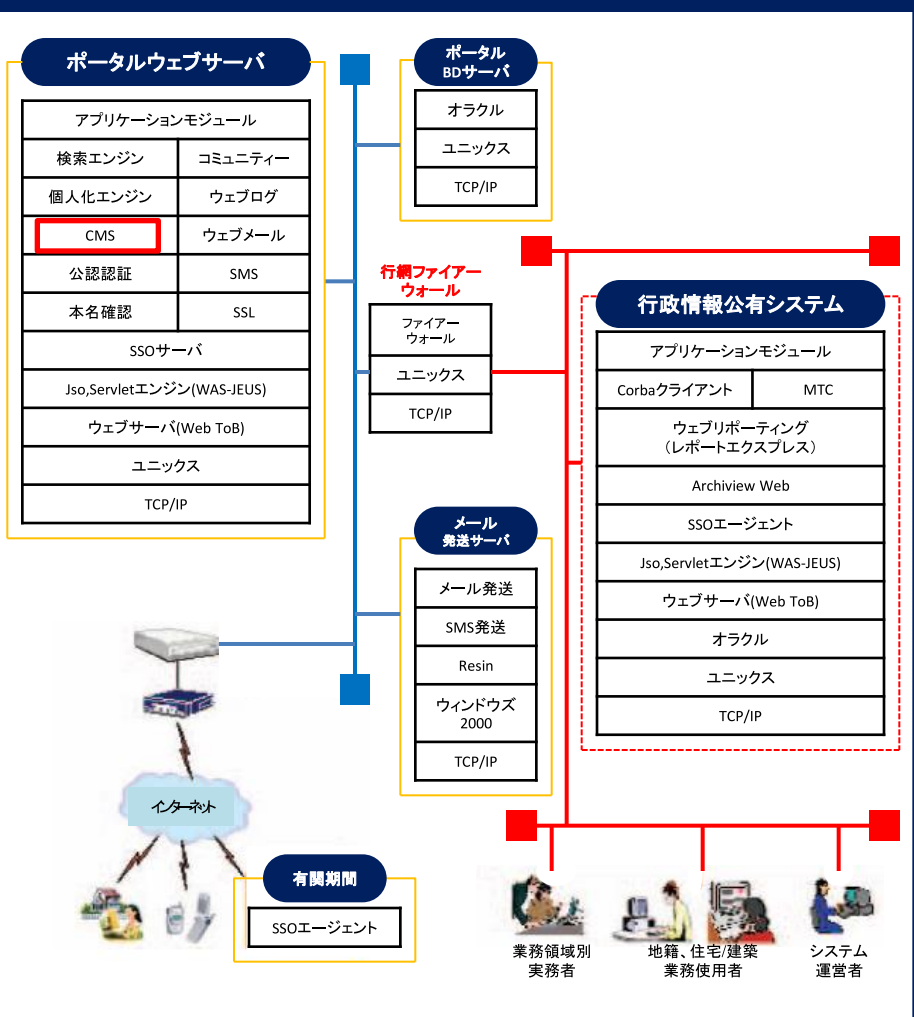
現在、高陽市役所が委任したCMS管理者権限で自体的にウェブページを変更する所は、徳陽区役所、一山東区役所、一山西区役所の3箇所の区役所と徳陽区保健所、一山東区保健所、一山西保健所の3箇所の事業所、そして建設課、文化芸術課、一山東区環境衛生課の3箇所の部署である。

上記の区役所や事業所、部署では直接市民を対象に広報パンフレットや業務に関するお知らせページを管理できて、毎回でも変更して使用できる。しかし告知事項(告示広告、行事消息、新消息など)は高陽市役所の承認フローを経てからホームページに登録できるようにCMS権限を制限した。

その以外にも高陽市役所は各区役所に簡単なイメージなどを直接編集してアップロードできる制限的な権限を付与している。住民集まりの告知など主に行政的な掲示物を管理できるようにして、既存のテキストのみだった内容に区の特色的な情報をイメージファイルでもアップロードできるようにした。

ジュ氏は「今回のプロジェクトは2006年12月にCMS管理権限を新しく付与し始めて、12月27日に初公開された。高陽市のウェブ正体性を壊さない特定権限の範囲でウェブページを柔軟で自由に運営できるように、CMSを利用した権限別ホームページの運営プロセスシステムに満足している。」と付け加えた。

高陽市eビジネスウェブページ



【お問い合わせ】

ジュ氏が説明するウェブ正体性は高陽市のみの特色のあるウェブレイアウトを決めて、その中で各部署や区役所が要求する形どおりに、限定された範囲内で再構成できるようにすることである。

体系的で効率的な管理体系の構築

■システムの構築時、最も重点的に検討した点は。

アイオンのCMSソリューションはコンテンツ管理をウェブブラウザを通じて遂行でき、コンテンツ管理者が別途のプログラムや使用法を習わなくても、易しく適応して実務で直ちに使うことができた。コンテンツの生成から消滅までのライフサイクル過程で、高陽市が要求する基準によって承認過程をデザインできる機能的なワークフローの支援が重要だった。またサイトやカテゴリ別の管理者指定、チーム別/個人別の権限や接近制限の付与、承認段階の設定などの長所が優秀だった。

特にIT専門家ではない使用者が直接コンテンツを変更しなければならないので、インターフェース部分が重要だった。ファイルをアップロード・ダウンロードする際に、アクセスが切れてファイルがなくなったり損傷されたりする問題を避けるには安定性が優先だった。

■システム導入はどういう戦略で行われたのか。

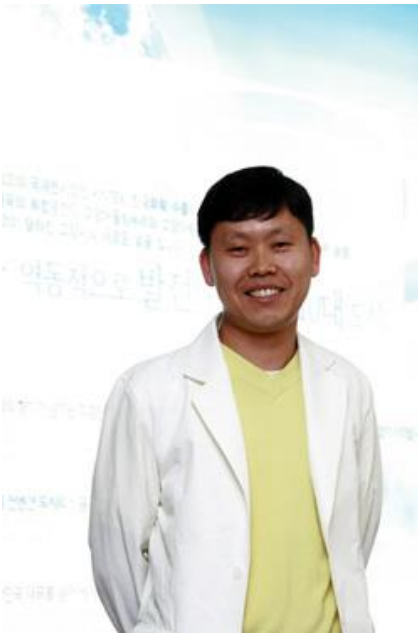
高陽市民生活に適応するウェブページを企画、構築することを最優先目標にした。高陽市のウェブ正体性を壊さない特定権限の範囲で、ウェブページを柔軟で自由に運営できるように、CMSを利用した権限別ホームページの運営プロセスシステムを構築した。

ウェブ正体性とは、高陽市のみの特色のあるウェブレイアウトを決めて、その中で各部署や区役所が要求する形どおりに、限定された範囲内でウェブページを再構成できるようにしたことである。

■CMSの活用計画は。

現在は主に告知事項の管理にCMSを使っている。告知事項を登録する時は、CMSを通じた承認フローに従うことになっている。例えば各郡役所や部署から任意で告知事項をアップロードしても、高陽市が承認しなければウェブページに登録されない。なぜなら情報の信頼性保障のためである。

また既存には掲示物の内容が違うとか、添付ファイルがないとか、電話番号が誤記されているなど、主民から市役所のホームページが不実だという指摘を受けたが、CMSの承認フローを通じてこのような問題を解決していくつもりだ。



高陽市役所公報担当官室 ジュ・チャンマン

コンテンツ管理権限の付与で便利性が一層強化

特に高陽市役所はCMSの導入後、コンテンツ管理に所要された時間や費用を大幅に節減できるようになった。直接HTMLページを作成しながら、コンテンツをアップロードしてページを変更した昔はデザイナーと開発者二人とも必要だった。しかしCMSを利用することで、担当者が直接簡単な部分を変更できて、CMSの熟練者は新しいページを作ることもできる。

さらにCMSを活用すると、コンテンツを作成してアップロードした人が記録されるため、永続的なコンテンツ管理が可能になる。またこれを基盤にコンテンツ作成者に関する統計資料を作って、成果管理の資料として使用できる。

統合管理ソリューションでアップグレードを計画

高陽市役所は「公共機関型e-ビジネスウェブページ構築」プロジェクトを通じたCMSソリューションの導入と共に、検索機能の強化のための次世代検索エンジンソリューション、業界で通常的に提示するE-ビズログ分析ソリューションなどを導入した状態である。しかし構築当時はそれぞれ異なるベンダーからソリューションを導入した結果、「統合管理」部分でもの足りない点がある。

これに対してジュ氏は「アイオンのCMS自体で使うリアルタイムログ分析機能を知っている。今後CMSシステムを拡張させてコンテンツ管理やログ分析をマッチングさせることで、より体系的・効率的で柔軟な管理体系を構築する計画だ。また役所には時間と人力の節減だけでなく、管理費節減の側面でCMS導入を勧めたい。」と語った。

【お問い合わせ】